



# 薬師寺小だより

平成28年5月  
下野市立  
薬師寺小学校長  
鈴木一恵

薬小っ子スタンダード  
当たり前のことを  
当たり前に行ける子に



心にとどく  
あいさつ



時間を決めて  
親子読書



早寝・早起き  
朝ごはん

やさしく

かしこく

たくましく

## 1年生、がんばる!

～3つの種が育っています～

62名の新生が入学して1か月が過ぎました。入学前に比べ1年生の生活は、多くのことが変わったことでしょう。

例えば、重いランドセルを背負って自分の足で登校する、45分間席に座っている、先生のお話をじっと聞く、学校の日課に合わせチャイムで生活する等、これまで以上に**時間や集団を意識する生活**がスタートしたわけですから、慣れるまでに時間を要するのは当然です。

でも、さすが薬師寺小の1年生です。入学式にあげた「三つの種」に毎日しっかりと自分で水をあげています。

Aさんは、「校長先生、ちゃんと、タネ、育てているよ。」と話しかけてきました。

また、「私の花、咲いた？」とBさんに尋ねられ返事に困った場面もありました。きっと、二人ともがんばっていることを伝えたかったのでしょうね。Bさんには、「小さな花が咲き始めているよ。いっぱい咲かせてね。」と答えました。

世界に一つだけの大きな花もありますが、『花咲き山』のお話のように毎日一つずつ咲かせる小さな花もありますね。**その子なりの花にエールを送り続けたい**と思います。



休み時間、野口公仕さんが校庭の草取りをしていると、その傍らで一緒に草をむしってくれている子たちがいました。それが何と1年生だったのには驚きました。

連休明け、「お母さんに会いたい。」と、泣きながらの登校。でも、ちゃんと足は教室に向かっているという姿も見かけました。

小さな体で一生懸命にがんばっている姿は、本当に愛おしく感動を覚えます。

この1か月、お家の方々もさぞご心配されながら送り出されていたことと思います。上手に温かな太陽の光を与えていらっしやるのが分かります。

**給食ボランティアさん**にも温かい光をいただき、順調に学校給食のスタートを切りました。



## 6年生の企画に感動

心温まる「1年生を迎える会」

5月9日(月)「1年生を迎える会」が体育館で行われました。310名の児童が一堂に会すのは入学式以来のこと、上級生は1年生と過ごすこの日を心待ちにしていたようです。特に6年生は、何日もかけて計画を立てました。その甲斐あって、1年生への温かい心遣いが伝わってくる素晴らしいひとときとなりました。

学校紹介クイズや先生紹介では、その内容の一つ一つに、「**1年生が早く学校に慣れるように**」と願う気持ちがこもっていました。

仲間あつめゲームでは、好きな色や同じ誕生月等で仲間あつめをしたのですが、

**「1年生を必ず入れて」**

という条件が加わるのです。優しく「何色が好き？」と声をかけられ1年生は、とても嬉しそうでした。



最後に渡したプレゼントは手作りの下敷き。それには、校歌と薬師寺小合言葉が手書きで書かれています。

上級生に温かく迎えられ、62人の立派な薬小っ子が誕生しました。



私からも毎日元気に登校できることを願って、オカリナで「さんぽ」の曲をプレゼントしました。♪歩こう、♪歩こうと全校生と一緒に歌ってくれたので、とても嬉しかったです。頼もしさも感じました。

# 地域の温かさの中で育つ子どもたち

## 安全ボランティアさんに感謝 お礼の気持ちをあいさつに

私が薬師寺小に来て、先ず驚いたのは、多くの地域安全ボランティアさんが子ども達の登下校を見守ってくださっているということです。

道の駅や宅地開発により、道路事情が変化し、交通危険箇所も増えていることと思いますが、登下校時、危ないところにはボランティアさんが立ってくださっています。

先日、本校で地域安全ボランティア会議が行われました。

11名の方が出席して下さり、今年度の体制確認と現状及び課題についてのご意見を伺いました。

谷地賀地区手押し信号設置の要望、南河内中学校西側の交通量の増加の現状、下校時の児童の様子等が話し合われました。

また、「我が家の子どもだと思って、ダメなことは本気で叱っています。」と仰ってくださる方もいました。「あいさつがよくなってきたね。」と褒めてくださる方もいました。「『ただいま帰りました』ってあいさつするんだよ。」と教えてくださっている光景を目にした時は、朝送り出した子が無事に下校する姿を心から喜んでくださっていることに胸が熱くなりました。



16日の集会で次のような話をしました。  
毎日お世話になっているボランティアの皆さんにお礼をしたいと思います。それも毎日、みんなができるお礼です。

それは、「あいさつ」です。みんなのあいさつは魔法の言葉、元気の素です。

「〇〇さん、おはようございます。行ってきます。」

「〇〇さん、ただいま。さようなら。」  
ボランティアさんの名前も覚えて、あいさつをすることがみんなにできるお礼です。

脚が痛いなあと思って立っていた方も、風邪気味なので薬を飲もうかなと思っていた方も、お家に戻る頃には、みんなのあいさつで痛みも薬も忘れてしまいますよ。

みんなのあいさつは、ボランティアさんの明日の元気につながるのです。

その日の下校時、早速、校門で「校長先生さようなら」とたくさんの子があいさつをしてくれました。私も子どもたちから毎日たくさん元気の素をもらっています。

## 読書環境づくりに感謝 ぜひ、家では親子読書を

もう一つ、薬師寺小に来て驚いたこと、それは、読書環境の素晴らしさです。

まず、学級文庫の充実です。薬師寺小では、PTA活動の一環として保護者の皆さんが輪番制で、毎月50冊もの本を南河内図書館から借りてくださっているとのこと、愛情たっぷりの学級文庫、本当にありがたいです。

時には、担任の要望で調べ学習のための本も借りてくださるそうで、「とても助かってます。」と、先生達も感謝しています。



さらに、読み語りの充実です。南河内図書館の読み語りボランティア「らこんて」の皆さんが各教室に毎月、読み語りに来てくださるとのこと、薬小の子はなんと幸せなことでしょうか。

本は「心の栄養」。心が柔軟な小学校時代に豊かな読書環境をいただけることは、一生の宝物です。

ところで、家庭での読書の様子はいかがですか。

「家ではどうも・・・。」

という声をよく耳にしますが、ゆっくりじっくり読めるのは、やはりお家が一番、家読（うちどく）の習慣が大切。

そこで、「親子読書」をお勧めします。難しいことではありません。テレビもゲームもストップする時間帯を決めて、家族みんなで本を読みましょう。大人は新聞でもいいです。1年生は読み聞かせもOK。

継続は力なり、1日20分読んだら1週間で140分、1か月続けたら600分、何と10時間。1冊位は読み終えますね。

お子さんの将来のために、ご家庭のスタイルに合わせた「親子読書」をぜひスタートしてください。



## 教材園の土壌にも地域の愛が

「ふるさと学習」のかんぴょう栽培をはじめとして、様々な栽培活動がスタートしていますが、そこにも地域の方から堆肥やわら、かんぴょう苗のご支援をいただいております。

地域の温かさに包まれながら、安心して学び、豊かな経験をさせていただいていることに心から感謝いたします。